

平成 24 年度教職大学院派遣研修研究報告書

研修生番号	24K10	氏名	松橋 絵美
研究主題 —副主題—	より積極的に体力向上を図るための体育授業の改善 —運動特性を尊重した「導入の運動」の開発を通して—		
所属校	台東区立田原小学校	派遣先	東京学芸大学教職大学院

項目	内容
I 研究の目的	<p>近年、児童・生徒の体格は向上しているにもかかわらず、基礎的運動能力は、体力水準が高かった昭和 60 年頃と比較すると依然として低い状態にあり、体力が高い子供と低い子供の格差は広がっている。また、行動体力だけでなく、防衛体力の低レベル化も起こしており、将来子供たちが豊かな生活や人生を送っていくことができるのか、憂慮すべき状況にある。</p> <p>この慢性的な体力の低水準状態を改善するために、新学習指導要領では、体力重視の方針が指導内容として具体化された。第一は、「体づくり運動」を低学年から位置付けたこと、第二は、すべての運動領域で体力向上をめざす方針を打ち出したことである。「体育」の授業は、運動の好き嫌いにかかわらず、運動の機会を定期的に提供できる唯一の教科であり、子供の体力向上、そして、生涯にわたってスポーツに親しむ資質や能力の基礎を養う上で、非常に重要な意味をもっている。</p> <p>新学習指導要領で示されているように、すべての運動領域で体力向上をめざすべきであるが、それぞれの運動には固有の楽しさが存在し、その特性が第一に尊重されなくてはならない。「体力向上」と「運動特性の尊重」という両者を同時に成立させ、各運動固有の特性に触れる活動の結果として、より積極的に体力の向上を図る体育授業の在り方を検討する必要がある。</p> <p>そこで、準備運動と主運動の間に感覚づくりの一環として行っている「導入の運動」に着目する。主運動の特性を尊重した「導入の運動」を開発し、年間を通して実践することで、小学校段階で必要な体力を意図的・計画的・系統的にバランスよく向上させていくことができると考える。ここで特筆すべきは、第一に尊重されるのが、主運動の特性であるということ。そして、その特性に触れる活動の結果として、体力の向上が期待できるということである。この点を重視することによって、「体づくり運動」以外の領域においても、児童自身は「体力向上」を意識しないながらも、学習した結果としてより一層の体力の向上を図ることができると考える。</p> <p>以上のことから、本研究では、各運動が有する特性を尊重した「導入の運動」を開発し、体力向上を図る運動プログラムを構築することを研究の目的とする。</p>
II 研究の方法	<p>①体力の必要性、現代社会における教育課題、体育授業における体力向上の在り方等を、先行研究・先行実践及び文献から明らかにする。</p> <p>②授業観察法を用いた授業分析により、体育授業と体力向上の関係性を考察する。</p> <p>③運動の特性・体力要素を明確にし、それらをもとに「導入の運動」を開発する。</p> <p>④「導入の運動」の実技講習会を所属校にて教員対象に実施した。その上で全学級で授業実践し、教員への聞き取り調査をもとに改善を図る。</p> <p>⑤上記③④をもとに体力向上プログラムを構築し、実践例ガイドブックを作成する。</p>

<p>Ⅲ 研究の結果</p>	<p>授業観察法を用いて、複数の小学校体育科の授業を観察・分析することにより、下記のような結果となった。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">授業観察の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○明確な学習目標のもと、1回1回の運動に<u>力いっぱい</u>取り組むことが大切。 ○<u>具体的で明確な学習目標</u>が設定されていないと、運動の質は高まらない。 ○<u>運動の特性</u>・技能ポイントを教師が把握することが大切。 ○<u>肯定的な人間関係行動</u>や<u>情意行動</u>が学習の雰囲気をよくし、意欲的な学習・質の高い学習につながる。 </div> <p>そこで、①目標が明確、②全ての児童が力を出し切れる、③運動の特性が尊重されている、④友達とのかかわりがある、⑤活動の結果として体力向上が期待できる運動を開発し、「導入の運動」として実践することとした。</p> <p>体力・運動特性の概念規定、各運動領域の運動特性、小学校段階で育成すべき体力要素等を明確にする基礎研究を踏まえて、全学年全運動領域の「導入の運動」を開発した。その後、教師によるシミュレーション・実技講習会・実証授業・聞き取り調査の結果をもとに、4回にわたって「導入の運動」の改善を重ねた。児童の実態に応じて改善することにより、「体力向上」と「運動特性の尊重」という両者を同時に成立させる「導入の運動」を開発することができた。以上のようなステップを踏んで各運動別に開発した「導入の運動」をもとに、学年の発達段階・運動の特性を考慮して、「体力向上プログラム」を構築した。小学校段階で育成すべき体力要素について、6年間を通してバランスよく向上させていくことに留意して、プログラミングしている。</p> <p>さらに、「導入の運動」28種目について、実践例ガイドブックを作成した。本研究が児童の体力向上、そして、心身ともに健康で活力ある生活に資することを期待して、言葉かけの例や動きのポイント、発展のさせ方等を分析し、写真を用いて整理した。</p>
<p>Ⅳ 考察</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎運動の特性を尊重しつつ、体力の向上を図る「導入の運動」を全運動領域で開発し、「体力向上プログラム」を構築することができた。 <li style="padding-left: 20px;">⇒より一層の体力向上を図ることができる体育授業につながる。 ◎発達段階に応じた各運動領域の特性を明らかにし、分析・整理することができた。 <li style="padding-left: 20px;">⇒本研究のみならず、今後の体育授業の改善につながる。 <p>【課題】</p> <p>本研究では、実証授業や聞き取り調査を通して、より有効な「導入の運動」の開発に努めた。しかし、それが実際の体力向上につながるかを短期間で実証することは難しく、今後も継続して取り組んでいくことで、有効性を検証する必要がある。</p>